

誠和会牟田病院受診の皆様にお願

研究のテーマ：

高齢者糖尿病患者におけるフレイル/サルコペニア研究のためのデータベースの構築と観察研究（断面並びに縦断研究）

【目的】

高齢化社会を迎えた我が国では、寝たきりや要介護の方を増やさないために、「フレイル（虚弱）」と呼ばれる要介護状態に至る前段階の病態を早期に把握し、対策を講じることが、高齢者の自立を促すために重要と考えられています。フレイルは、早期の段階であれば、介入によって、ある程度、改善を期待し得る病態です。当院では、132名の高齢者糖尿病患者様(65歳以上)を対象に研究を行なったところ、加齢、低HbA1c値、低栄養状態、収縮期血圧の低下などが関係していることを観察しました（研究1）。

一方、サルコペニアは、加齢とともに筋肉量が減少して筋力低下をきたす状態を指します。サルコペニアは転倒や骨折、寝たきの原因となります。牟田病院では、以前、108名の高齢者糖尿病患者様(65歳以上)を対象にした研究で、サルコペニアの危険因子として、筋肉を護る作用のあるDHEA-Sというホルモンの低下、貧血、血圧の低下などが関係していることを観察しました（研究2）。

これら二つの研究は、貴重な研究結果ですが、まだ、全体の患者さんの数が少なく、本研究では、この二つの研究にご参加いただいた患者様のデータを今後に活かすと同時に、新たに、新規に患者登録を行っていくことで、研究の規模を拡大したいと考えております。これが、第一の目的です。また、第2の目的として、長期的にフォロー（5-7年間）させていただき、フレイルやサルコペニアの状態を経年的（できれば半年に一度、最低限、一年に一度）に評価させていただきたいと思ひます。これが第2の目的です。

【ご協力いただきたいこと】

- 研究1と研究2にご協力くださいました患者様のデータを、改めて、今回の研究に使わせていただくことをご了解いただければ幸いです。

【ご協力にあたりご理解いただきたいこと】

- 患者様個人にお電話などで直接問い合わせることはありません。研究は、患者様の診断・治療のために実施された検査結果などをまとめて解析・検討することにより行います。
- 患者様の個人情報には厳重に管理します。本研究の結果は、解析後に学術論文や学会発表で公表することがありますが、「カルテ番号、氏名、住所、電話番号」など、個人を特定できるような情報は完全に保護(匿名化)され、公表されることはありません。
- 同意されなくても診療上の不利益が生じることは一切ありません。
- 本研究は特定の薬剤の効果を見るような研究ではありませんので、どこかの個人や団体と利害関係が生じるようなことはありません。申告すべき利益相反はありません。
- 本研究は牟田病院の倫理委員会の審査を受け承認されています。
- この研究に関するご質問がある場合、本研究への参加を辞退されたい場合は、下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】

研究責任者：藤原裕矢、岩屋智加予（電話：092-865-2211）